

道路のアンダーワールドに行ってきました～橋を補修するために～

2018.01.16



ここは、倉敷市片島にある国道2号の側道部（高架橋でつくられたバイパス道路に平行する道路）です。

岡山国道事務所では、道路を安全に通行できるかどうかを判断するため、全ての橋梁について5年に1回点検することになっています。点検の結果、岡山国道事務所が管理する一部の橋について、今後も安全に使い続けるためには補修をしなければならないことが分かりました。ここにある橋も、補修をしなければならないと判定された橋なのですが…。下の写真のどこに橋があるか、お分かりでしょうか？

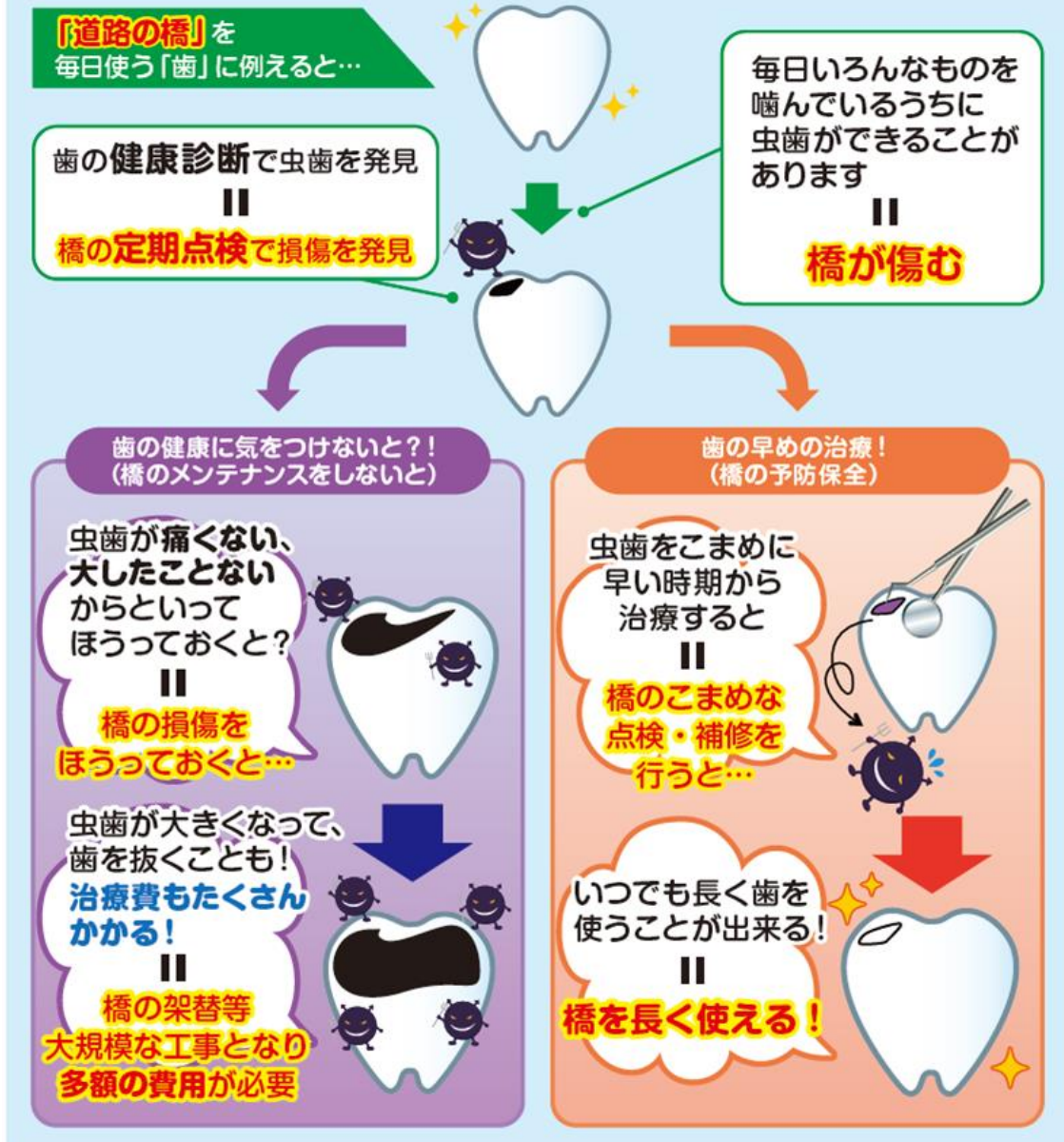


実は、交差点の手前3メートルほどが、橋なんです。
横から見ると、こんな感じ。下に用水路が走っています。



たった3メートルしかない橋でも、何十年も使い続けているとどうしても傷みが見つかってしまいます。この橋では、前回の点検にてコンクリートの浮きやひび割れが見つかりました。こういった損傷をそのまま放っておくと、修復が不可能となって橋を架け替えなければならなかったり、通行中に事故が起こってしまったりする可能性があります。逆に、早期発見・早期治療をすれば、架け替えに比べて非常に簡単な補修をするだけで橋を長く利用することができるのです。

〈老朽化への効果的な対策とは？〉



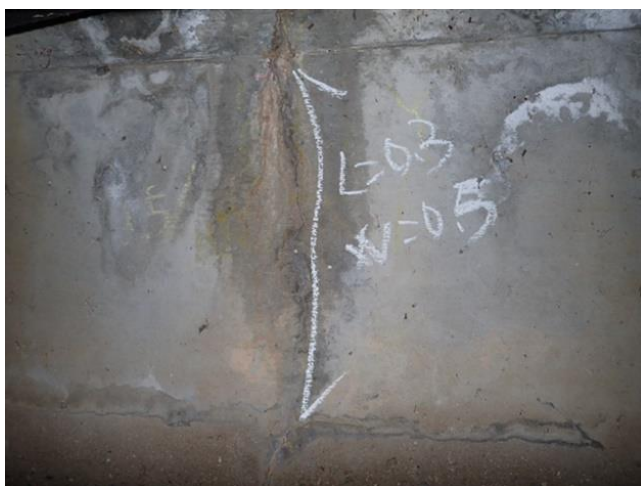
岡山国道事務所ではこの橋を早いうちに補修するため、その方法を検討（設計）することにしました。設計作業のほとんどは建設コンサルタントさんが実施していただきます。

ただ、道路管理者として私たちも、①現在どのような状態か②どういった方法で補修するか——について理解しなければなりません。

そこで、今日は現場にやってきました。ただ、点検の結果によると、浮き・ひび割れが見られるのは何と用水路の中！ 路上から見るだけでは何も分からないようです。というわけで、胴長を着て用水路の中へレッツゴー！



中は真っ暗。用水路には膝より高い位置まで泥がたまっていて、途中で足をとられそうになります。立ち止まっていると次第に足が沈み込んでいく。バランスを崩すと…あっ、となりそうでしたが、壁で支えるなどして私は何とか踏みとどまりました。



どうにかこうにか、目的の場所にたどり着き、上への写真のような損傷を確認しました。

確かに、コンクリートが浮いていたり、チョークでなぞられたようにひびが入っていたりです（書かれている文字は、長さが 0.3 メートル、幅が 0.5 ミリメートルであることを示します。）また、この橋には他にもコンクリートがはがれ落ちている箇所があるなど、損傷の度合いが比較的高いことを確認しました。

現地確認の後、今後の方針について設計をお願いしているコンサルタントさんと相談。

次は、損傷の原因を詳しく調べて、その後で最終的にどのような補修を実施するかを考えることを決めました。

なお、実際の補修工事の際は、一部の車線を規制して施工することが予想されます。道路を長持ちさせるためにも、ご協力のほどよろしくお願いします。

記事作成：管理第二課 FJT